

高専八代開発の電動車いす 世界トップ10



熊本高専八代キャンパス（平山新町）の学生らが開発した自動操縦電動車いす（スローパー）が、昨年6月にアメリカで開催された機械工学のアイデアや技術を競う世界大会に出場した。

大会には、50以上の大学が参加。自動運転や障害物を感知して避ける機能が評価され、トップ10に入り、入賞を果たした。参加した日本のチームでは唯一の入賞だ。

「スローパー」は市販の電動車いすに独自の機能を追加。専用タブレットに目的地を設定すると、自動で動き、



滑らかに動く!!
カーブもおまかせあれ

障害物はセンサーで感知して迂回する。両輪に回転数を測定するセンサーをつけ、移動距離を測ることもでき、カーブや幅の狭いスローパーもスムーズに上り下りできる。

山下徹准教授指導の下、機械知能システム工学科のカーン・イブラヒマさん（セネガル出身）、タス・スリニヴァサン・シリシ・バブさん（インド出身）、湯野友貴さん、本山和輝さん、森本堅太さんの5年生5人で開発。

山下准教授は、「チームの開発スキルはあると信じていたが、それをプレゼンしてアピ

ールするまでがコンテストだと思っていた。今大会で世界に認められたことで学生も自信がついたのでは」と学生たちの今大会での成長を喜んでた。

メンバーの5人には、それぞれの幼少期を振り返りながら、もの作りが好きな子ども達にアドバイスを送ってもらった。

湯野さん「難しいと思ったことでも意外と簡単なことがある。まず何でもやってみることが大事」

森本さん「面白いと思ったことをとことん突き詰めること。子供の時はよく機械を分解していた」

カンさん「コンテストにたくさん出ること。参加すると気づくことがある」

タスさん「まずは、やりたいうことを見つけて。子どもの頃はプログラミングの勉強もよくしていた」

本山さん「もの作りが好きなら高専も良いところです。環境も良くやりたいこともさせてくれる」

今後の彼らの活躍に期待したい。

